

みずほマーケット・トピック(2024年7月26日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

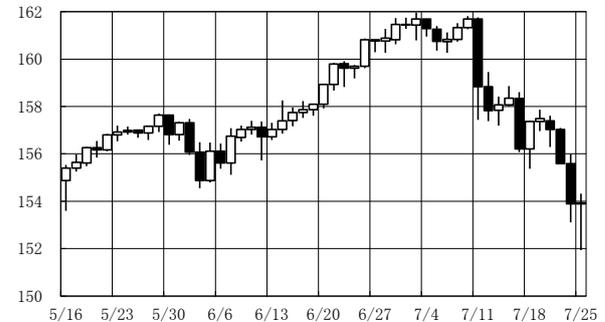
※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

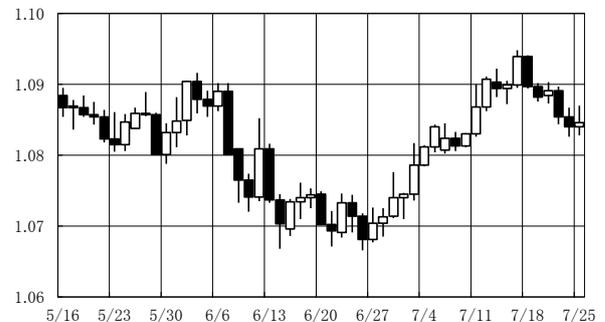
- 今週のドル/円は市場ボラティリティの高まりを受けた円キャリートレードの巻き戻しを背景に、約2か月半ぶりの安値まで下落した。週初22日、157.42円でオープンしたドル/円は、円買い相場の中で157円を割り込む展開。海外時間は、156円台前半に続落するも、米金利反発に連れる格好で157円台を回復した。23日、ドル/円は翌週に日銀金融政策決定会合を控える中、利上げ期待の高まりから一時156円台前半にじり安。海外時間も同様の流れが続く中、米金利反発に反し155円台半ばに続落した。24日、ドル/円は日銀に対する利上げ期待がさらに高まる中で、155円を割り込んだ。海外時間は、米金利低下も相まって一時153円付近に下押したが、その後は軟調な米国債入札結果を受けた米金利反発に合わせ154円付近に値を戻した。25日、ドル/円は日本株の急落を横目に153円を割り込む値動き。海外時間は、約2か月半ぶりの安値となる151.95円に続落。その後は、米4~6月期GDP(速報)の良好な結果をきっかけにドル買いが加速し、154円付近まで回復、概ね下に往って来いとなった。本日のドル/円は、引き続き154円付近で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは、独金利低下を受け、小幅に水準を切り下げた。週初22日、1.0899でオープンしたユーロ/ドルは特段の材料がない中で、1.08台後半を中心として方向感なく推移した。23日、ユーロ/ドルはデグンドスECB副総裁による次回会合での利下げの可能性を思わせるハト派的な発言を背景とした独金利低下が重しとなり、1.08台半ばに下落した。24日、ユーロ/ドルは独7月製造業/非製造業PMI(速報)の弱い結果を受け、一時週安値の1.0826に続落。その後は、米金利の上下に振らされる展開の中で、1.08台半ばを中心にレンジ推移した。25日、ユーロ/ドルは、材料に欠ける相場環境の中で、米金利低下が下支えとなり一時1.08台後半に上昇したものの、その後は米国株の反落などが重しとなる中1.08台半ばに値を下げて引けた。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.08台半ばで取引されている。

		前週末	今 週			
		7/19(Fri)	7/22(Mon)	7/23(Tue)	7/24(Wed)	7/25(Thu)
ドル/円	東京9:00	157.17	157.42	156.91	155.77	153.92
	High	157.85	157.61	157.09	155.99	154.30
	Low	156.96	156.29	155.56	153.11	151.95
	NY 17:00	157.50	157.02	155.56	153.85	153.95
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0900	1.0899	1.0890	1.0850	1.0838
	High	1.0901	1.0903	1.0896	1.0866	1.0870
	Low	1.0876	1.0873	1.0844	1.0826	1.0829
	NY 17:00	1.0883	1.0892	1.0855	1.0840	1.0845
ユーロ/円	東京9:00	171.38	171.49	170.86	169.09	166.77
	High	171.85	171.59	171.05	169.12	167.57
	Low	170.99	170.09	168.85	166.16	164.85
	NY 17:00	171.34	171.00	168.88	166.88	166.85
日経平均株価	40,063.79	39,599.00	39,594.39	39,154.85	37,869.51	
TOPIX	2,860.83	2,827.53	2,833.39	2,793.12	2,709.86	
NYダウ工業株30種平均	40,287.53	40,415.44	40,358.09	39,853.87	39,935.07	
NASDAQ	17,726.94	18,007.57	17,997.35	17,342.41	17,181.72	
日本10年債	1.03%	1.05%	1.06%	1.07%	1.07%	
米国10年債	4.24%	4.25%	4.25%	4.28%	4.24%	
原油価格(WTI)	78.64	78.40	76.96	77.59	78.28	
金(NY)	2,399.10	2,394.70	2,407.30	2,415.70	2,353.50	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、30日(火)～31日(水)にFOMCが開催される。6月会合は、FF金利の誘導目標を7会合連続で据え置き。声明文では、「ここ数か月間、物価目標に対するさらなる進展は見られない」との文言が、「最近、物価目標に向けた緩慢な更なる進展があった」に変更された。メンバーの政策金利見通しは年内利下げ回数(中央値)に関し、3回から1回へ下方修正。しかし、弱い結果になった米5月消費者物価指数(CPI)を詳細に解釈する時間があれば、ドットチャートも2回が中央値になっていた可能性はある。その後、弱い物価指標公表や、FRB高官のハト派な情報発信を受け、利下げ期待は再加速傾向だ。9月利下げがコンセンサスになる中、声明文変化および議長会見のスタンスに注目したい。
- 本邦では、30日(火)～31日(水)に日銀金融政策決定会合が開催される。6月会合では、政策金利の誘導目標の据え置きを決定。長期国債の買入れに関しては、量的引き締め(QT)は方針自体が決定されたが、具体策は7月会合で詰めるという情報発信に留まった。かかる中、7月会合の注目点は①QTの具体的内容、②利上げの有無の2点に集約される。債券市場参加者会合を経ている以上、①は波乱材料にならなさそうだが、②については見方が分かれる。各種メディアが調査する限り、7月会合での利上げ予想はそれほど多くない。その理由は、QT決定と同時にを行うことの危険性や、ここも円安一服が挙げられることが多い。もっとも、FRBの利下げ路線が確実視され先々の米金利低下が予見される点、為替と結びつけずに利上げの説明がしやすい点などに鑑みれば、今回会合での利上げも排除されない。

	本 邦	海 外
7月26日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 7月東京消費者物価指数 5月景気動向指数(確報) 	<ul style="list-style-type: none"> 米6月個人所得/支出 米6月個人消費支出デフレーター
29日(月)	—————	—————
30日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 6月失業率/有効求人倍率 日銀金融政策決定会合(31日まで) 	<ul style="list-style-type: none"> 独7月消費者物価指数(速報) ユーロ圏4～6月期GDP(速報) 米6月JOLT求人件数 米7月コンファレンスボード消費者信頼感 FOMC(31日まで)
31日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 6月小売売上高 6月鉱工業生産(速報) 7月消費者態度指数 植田日銀総裁会見 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏7月消費者物価指数(速報) 米7月ADP雇用統計 米4～6月雇用コスト指数 パウエルFRB議長会見
8月1日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 7月製造業PMI(確報) 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏7月製造業PMI(確報) ユーロ圏6月失業率 米7月製造業PMI(確報) 米7月ISM製造業景気指数
2日(金)	—————	<ul style="list-style-type: none"> 米7月雇用統計

【当面の主要行事日程(2024年7月～)】

日銀金融政策決定会合(7月30～31日、9月19～20日、10月30～31日)
 FOMC(7月30～31日、9月17～18日、11月6～7日)
 ジャクソンホール経済シンポジウム(8月22～24日)
 ECB政策理事会(9月12日、10月17日、12月12日)

金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年7月24日	インバウンド、「量」から「質」の意味するもの
2024年7月23日	バイデン撤退も市場動かしず～円ショートは依然膨大～
2024年7月19日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「資金は必ず下がる」という自信～)
2024年7月18日	日銀会合プレビュー～円高だからこそ利上げ～
2024年7月17日	進むインフレ税による財政再建～資金循環統計～
2024年7月16日	復活しつつある「インフレの輸入」～利上げへの追い風～
2024年7月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金利差に騒がない大事さ～問題は投機が去った後～)
2024年7月11日	株価、「真正正銘のバブル超え」の読み方
2024年7月10日	最近の円相場需給環境について
2024年7月8日	米大統領選挙、現時点の解釈～為替市場の視点～
2024年7月4日	円安功罪論について～総論と各論を分けるべし～
2024年7月3日	短観(6月調査)が意味するもの～利上げは可能か～
2024年7月2日	フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月1日	24年上半期を終えて～円は真正正銘の最弱通貨～
2024年6月28日	週末版
2024年6月27日	家計金融資産の現状～外貨比率は最高値更新へ～
2024年6月25日	「隠れ円安」への正しい理解～実効円安を見る努力を～
2024年6月24日	為替政策報告書～日本のリスト入りは形式上の不備～
2024年6月21日	週末版(欧州委員会による財政是正措置勧告～フランス極右政党 vs. 欧州委員会～)
2024年6月19日	本邦5月貿易収支を受けて～思ったよりも減らない赤字～
2024年6月18日	久しぶりの欧州政治騒動～27年まで波乱無しが基本に～
2024年6月17日	日銀金融政策決定会合を終えて～上がる期待値～
2024年6月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年5月分) 週末版
2024年6月13日	FOMCを終えて～中立金利上昇と為替見直し～
2024年6月12日	既に前年実績を超えてしまった「家計の円売り」
2024年6月11日	懸念される旅行収支黒字の頭打ちという未来
2024年6月10日	円相場の需給環境について～4月までの総括～
2024年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面入りへ～)
2024年6月5日	証券投資は巻き返すか？～収益率で考える未来～
2024年6月4日	敢えて考える対内直接投資促進の「負の側面」
2024年6月3日	強含む経済指標に囲まれるECB～ユーロ相場の考え方～
2024年5月31日	週末版
2024年5月29日	虚しく響く「33年連続、世界最大の対外純資産国」の肩書き
2024年5月28日	「This time is different」は利上げ予告か～内田講演～
2024年5月27日	加速したユーロ圏妥結資金とECBブログの言い分
2024年5月24日	週末版
2024年5月23日	金利差縮小でも円安修正は進まず～議事要旨を受けて～
2024年5月22日	「もした」で注目される欧州の立ち回り
2024年5月21日	ユーロ圏経済の近況～「底入れ」という不都合な真実～
2024年5月20日	垣間見えたECBの「次の一手」～ECB理事インタビュー～
2024年5月17日	週末版(色濃くなるスタグフレーションの様相～窮屈になる日銀の政策環境～)
2024年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年4月分) 円安抑止の処方箋～即効性と持続性のトレードオフ～
2024年5月14日	通貨政策化する金融政策～定着する「為替との戦い」～
2024年5月13日	1～3月期国際収支統計～需給改善を確認～
2024年5月10日	週末版
2024年5月9日	遂にインフレ税が始まったのか？～円安と債務～
2024年5月8日	FRBの「次の一手」と円相場の予想パスについて
2024年5月7日	円安抑止の処方箋～NISA国内投資枠～
2024年5月2日	週末版(レバトリ減税について～「5%の摩擦」に拘るべき～)
2024年4月30日	日銀が回避した為替との戦い、今後のリスク
2024年4月26日	週末版
2024年4月25日	トランプ氏と為替～結局、何も考えていない？～
2024年4月23日	世界経済の下方シフトの背景にあるもの～IMF分析～
2024年4月22日	ドル高是正の国際協調に機は熟せず～G20とドル高～
2024年4月19日	週末版
2024年4月18日	IMF世界経済見直しを受けて～またも「分断」はテーマに～
2024年4月17日	前途多難な貿易収支～待たれる電源構成の変化～
2024年4月16日	最悪のシナリオは米利上げ再開～中東リスクと円安
2024年4月15日	依然赤字圏のCFベース経常収支～原油価格騰勢の足音～
2024年4月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年3月分) 週末版(ECB政策理事会を受けて～6月利下げはほぼ既定路線へ～)
2024年4月11日	「でこぼこ道」が「再燃の入口」か～米3月CPIを受けて～
2024年4月10日	過去最高ペースだった「家計の円売り」～Q1を終えて～
2024年4月9日	対内直接投資のキーワードは「資本はアジア、業種は金融・保険業」へ
2024年4月8日	独歩安だった円相場～第1四半期振り返り～
2024年4月5日	週末版
2024年4月4日	ECBは6月利下げに向けて第一関門突破
2024年4月3日	外貨準備構成通貨の近況について(2023年12月末時点)
2024年4月2日	デジタル強国アイルランドの存在感をどう考えるか？
2024年4月1日	デジタル赤字は日本だけの問題なのか？
2024年3月29日	週末版
2024年3月27日	円安・円高双方のリスクになる連続利上げ
2024年3月25日	23年末資金循環統計を受けて～株・外貨共に過去最高目前～
2024年3月22日	週末版(FOMCを受けて～少なくなるドル/円相場の「押し目」)
2024年3月21日	「債券市場への優しさ」が助長した円安～日銀決定を受けて～
2024年3月18日	「噂で売って、事実でも売りに」になりそうな円相場
2024年3月15日	週末版(「家計の円売り」は3月も続くのか？～試される個人投資家の芯～)
2024年3月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年2月分)
2024年3月13日	春闘と円高リスク～「異例の買上げムード」というリスク～
2024年3月12日	最近の国際収支の状況について～CFでは初月赤字～
2024年3月11日	最大の円高リスクは日銀の連続利上げ
2024年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月まで材料なし～)
2024年3月6日	世界の株価指数から見えるもの～中進国の容疑～
2024年3月5日	ユーロ圏の資金・物価情勢～妥結資金は年内4%台か～
2024年3月1日	週末版(マイナス金利解除と円相場の関係性～ドル/円相場、数少ない押し目の考え方～)
2024年2月27日	ユーロ圏の現状と展望～金利と需給から～
2024年2月26日	日経平均株価上昇の理由～インフレの帰結～
2024年2月22日	週末版
2024年2月21日	1月貿易収支を受けて～24年も円売り優勢変わらず～